

担当課評価基準  
 A…基本事業の実績が計画以上  
 B…基本事業の実績が計画どおり  
 C…基本事業の実績が計画以下

■第2期における実施計画

△:検討 ●:実施 →:継続

1. 魅力向上戦略

基本事業	事業概要	第2期				第3期以降の見通し
		R3	R4	R5	R6	
(1)観光地の魅力向上	本市は、ポテンシャルの高い多様な観光資源を有していますが、魅力的な観光地としての磨き上げや統一的なイメージによるイメージ形成が課題となっています。誰もが訪れたいと思える魅力的なまちづくりの推進と観光インフラの整備により、観光地としての価値の向上を図ります。					
①忍者の歴史・実態の調査と発信	現代に続く忍者の痕跡や、忍者の実態を示す個人所有の古文書等資料の調査を行う、甲賀流忍者調査団「ニンジャファインダーズ」の取り組みをはじめとして、本物の忍者の実像につながる歴史的・文化的資料の発掘・調査と発信に取り組みます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 A 甲賀流リアル忍者館の展示室において、甲賀流忍者調査団の調査結果や活動成果、古文書等の展示を引き続き実施しました。また、地域おこし協力隊の福島崇仁隊員が地域や関係団体と連携し、調査を行った結果、忍術書「間林清陽」を発見したことを受け、忍者調査団団長である磯田道史国際日本文化研究センター教授と、今後の調査等の協議を実施しました。					
R4実績	評価欄 A 甲賀流リアル忍者館の展示室において、甲賀流忍者調査団の調査結果や活動成果、古文書等の展示を引き続き実施しました。昨年度発見された間林清陽の記者発表により多くのメディアに取り上げられるとともに、記述がある忍具の復元・展示を行いました。一部は来館者が体験できる仕様になっており、より「リアル忍者」を体感できる仕組みを増やすことが出来ました。					
R5実績	評価欄 B 甲賀流リアル忍者館の展示室において、団長の部屋を模した展示スペースを作成した。団長である磯田先生や忍者調査団に協力いただいている山田先生の書、並びに、忍者にに関する書籍をより親しみやすい雰囲気で見せました。また、1階スペースには、忍具だけでなく、その忍具の使い方を紹介する動画を放映するタブレットを一緒に展示することで、より広い層に対してリアル忍者に興味をもっていたりできる仕組みを増やすことが出来ました。					
R6実績	評価欄 A 団長の部屋を再現した展示スペースでは、多言語対応のQRコードを設置することで、訪日外国人を含む来館者への情報提供を充実させ、インバウンド対応の強化を図りました。また、甲賀流忍者調査団「ニンジャファインダーズ」の調査内容を報告書として公表するとともに、歴史学者・平山優氏との特別対談を実施し、全国から約400名が参加するなど、甲賀流忍者の認知度向上に大きな効果がありました。					
②“忍者の里”の雰囲気の醸成	日本遺産構成文化財へ誘導するサイン整備や甲賀流リアル忍者館を中心とした整備を進め、観光案内板の意匠や商店のディスプレイ等、来訪者に“忍者の里”を感じさせる身近な取り組みについて、関係者と連携して推進します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B 日本遺産構成文化財のサイン整備については、案内看板4箇所や道標2箇所を設置しました。また、甲賀流リアル忍者館においては、“忍者の実像”のパネル展や子ども向けの忍者教室を3回開催し、忍者の里を身近に感じていただく取り組みを実施しました。					
R4実績	評価欄 B 日本遺産構成文化財のサイン整備では、新たに案内看板を11箇所設置しました。リアル忍者館では、“忍者の実像”のパネル展や子ども向けの忍者教室を3回開催し、忍者の里を身近に感じていただく取り組みを実施しました。					
R5実績	評価欄 A 日本遺産構成文化財のサイン整備では、構成文化財に多言語に対応するQRコードの貼り付けを行いました。また、甲賀流忍者を題材としたアニメ制作を手掛けているクリプトアニメラボ有限責任事業組合と連携協定を締結し、リアル忍者館に『忍びない！クリプトニンジャ映写』のパネルを展示する等、新たな連携事業に取り組みました。					
R6実績	評価欄 A 甲賀流リアル忍者館において、日本遺産の構成文化財である「忍書」(万川集海)に登場する忍具の設置を行いました。実際に触れてその効用を学ぶことができる体験型展示で、各忍具の説明動画も多言語対応による字幕を付け制作し、インバウンド対応も可能にしました。また、市の日本遺産構成文化財を活用したプロジェクションマッピングの新規映像資料を制作しました。甲賀忍者の歴史をより伝わりやすいため、ストーリーとその関連文化財の紹介を主題としました。また、英語字幕も併記し、より広い層に対して「リアル忍者」に興味をもっていたりできる仕組みを増やすことが出来ました。					
③観光インフォメーションセンターの機能強化	本市の観光ゲートウェイとして位置付けた甲賀流リアル忍者館のインフォメーション機能を強化し、併せて、市内各施設の受け入れ体制の充実を図り、きめ細かな観光案内体制を整えます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B 甲賀流リアル忍者館の施設運営管理について、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、令和3年度から新たに地域おこし協力隊の福島崇仁隊員に甲賀流リアル忍者館の運営に携わっていただき、忍者観光に係る受け入れ体制の充実を図るとともに、ゴルフ場の紹介コーナーや市内飲食店舗の紹介コーナーを新たに設置しました。					
R4実績	評価欄 B 甲賀流リアル忍者館の施設運営管理について、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、忍者観光に係る受け入れ体制の充実を図るとともに、ゴルフ場の紹介コーナーや市内飲食店舗の紹介コーナーを運営しました。また、地域おこし協力隊の福島崇仁隊員にも企画運営へ関わっていただき「モンスターハンター×甲賀」のコラボ企画を実施し、市内内外のPR効果は非常に高いものでありました。					
R5実績	評価欄 B 甲賀流リアル忍者館の施設運営管理について、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、現在行っている忍具の展示と解説を継続しつつ、来館者の満足度を上げ、地域資源である文化財やその歴史といった市内観光資源をPRするため、甲賀流リアル忍者館で団長の部屋を模した展示や動画を活用した展示など、より広い層に対して「リアル忍者」に興味をもっていたりできる仕組みを増やすことが出来ました。また、リアル忍者館の多言語についての翻訳作業(スペイン語)を実施しました。					
R6実績	評価欄 B 甲賀流リアル忍者館の施設運営については、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、安定的な運営体制を確保しました。あわせて、多言語対応として翻訳データを整備し、ホームページへのQRコード翻訳ページの追加や館内展示物へのQRコード設置を行ったことで、訪日外国人を含む来館者の利便性向上とインバウンド対応の強化につながりました。					

④観光拠点施設の整備及び観光資源のネットワーク化		<p>忍者を核とした観光拠点整備基本計画に基づく、観光拠点整備を公民連携で進めるとともに、市内に点在する豊かな観光資源の磨き上げや、誘客促進につながる整備を市民・施設管理者と連携して取り組みます。</p> <p>また、整備については、PFIなど民間活力の活用手法を継続的に検討しながら、観光インフラ整備や観光資源のネットワーク化を進めます。</p>	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	忍者を核とした観光拠点整備基本計画に基づく、2次整備に向けた測量業務等を行いました。また、飯道山の周遊ルート整備として、登山道の修繕や案内看板4箇所・ベンチの設置6箇所、眺望ポイントの樹木伐採等の環境整備を実施しました。					
R4実績	評価欄 B	「忍者を核とした観光拠点整備基本計画」に基づき、専門家や地域等を含めた関係者で構成する検討協議会を立ち上げ、拠点施設の2次整備の協議を重ねるとともに、市内で新たに発見された忍術書「閻摩清陽」に記載される忍具のレプリカを製作・展示し、観光誘客に努めました。また、飯道山の周遊ルート整備として、観光トイレの改修設計、登山道の修繕や休憩所の改修等を実施して周遊の促進に努めました。					
R5実績	評価欄 B	「忍者を核とした観光拠点整備基本計画」に基づき、専門家や地域等を含めた関係者で構成する検討協議会を開催し、拠点施設の2次整備にかかる協議を重ね、整備検討案を作成しました。また、飯道山の周遊ルート整備として、観光トイレの改築、危険木等の伐採等を実施して周遊の促進に努めました。					
R6実績	評価欄 B	「忍者を核とした観光拠点整備基本計画」に基づき、専門家や地域等を含めた関係者で構成する検討協議会を開催し、プララ周辺の2次整備にかかる協議を重ね、室内整備をメインに行う方向性を決定しました。また、リアル忍者館案内看板について、インバウンドに対応するための多言語化を行い、誘客促進を図りました。					
⑤道の駅の再整備		道の駅あいの土山再整備基本計画に基づき、観光情報の発信の他、お茶をはじめとする農産物の販売促進や信楽焼などの地場産業、地域の活性化を目的として、道の駅の再整備を進めます。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	道の駅あいの土山マーケティング調査及び経営改善プランをもとに、施設の方向性や備えるべき機能などを盛り込んだ「道の駅再整備基本計画」を策定しました。					
R4実績	評価欄 B	「道の駅あいの土山再整備基本計画」に基づき、整備敷地の造成や建物等にかかる測量設計を行うとともに、基本設計に着手しました。また、運営面では、(株)道の駅あいの土山の経営改善のため、道の駅等に精通した顧問及びコンサルティング会社を迎え、組織強化に向けた取り組みを進めました。					
R5実績	評価欄 B	「道の駅あいの土山再整備基本計画」に基づき、基本設計及び実施設計を完了し、木材調達業務と新築工事に着手しました。また、運営面では、(株)道の駅あいの土山の組織強化に向けた取り組みを進めるとともに、リニューアル後の道の駅への出荷者募集や、事業者に対して商品開発の協力依頼を実施し、物販・飲食部門においてもリニューアルに向けた取り組みを進めました。					
R6実績	評価欄 B	万博等による人手不足など社会情勢の変化により、工期延伸となりましたが、「道の駅あいの土山再整備基本計画」に基づく木材調達、解体工事、外構設計は予定どおり進めることができました。また、組織強化や経営改善に向けたコンサル費用等に対して補助を行うとともに、地域おこし協力隊や地域力創造アドバイザーの制度を活用した人的支援や経営規模の拡大に伴う安定経営のため、出資(増資)を行いなど、ソフト面でのサポートも実施しました。					
(2)市民と連携した資源開発		魅力的な観光地の基礎となる魅力的なまちづくりには、市民・事業者・関係団体の主体的な参加が不可欠です。市民参加型の観光資源の開発を進めることで、地域の活性化と運動した観光まちづくりを推進します。					
①市民協働によるおもてなし体制づくりと観光資源開発		市民の自主的な活動として取り組まれる、歴史体験提供や語り部活動等に代表される甲賀流おもてなし体制づくり、観光地の磨き上げ、地域観光資源のPR等の活動について、協働による取り組みを推進します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	スカーレット効果を一過性に終わらせないために、「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会においてスカーレットレガシーを活用した受入れ体制整備や情報発信、観光誘客事業に取り組みました。また、(一社)甲賀市観光まちづくり協会、観光ボランティアガイド連絡協議会と連携し、観光おもてなし体制推進事業として、接遇やプロガイドの講義を観光ボランティアガイド向けに開催し、ボランティアガイドの持つ知識や経験をデータ化し、後継者育成のためのマニュアルとなるDVDの作成を行いました。					
R4実績	評価欄 B	市内28の関係団体で組織する「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会が、当初の目的を達したことから発展的解散をし、新たに市全域でロケーションを活用した観光振興および地域振興の促進により観光産業の活性化を図るため、甲賀ロケーション推進協議会を設立し官民連携による観光客受け入れ体制の整備やロケ誘致に取り組みしました。また、日本遺産事業として、ガイド育成講座を初級編と上級編にわけて実施し、延べ78人が参加しました。					
R5実績	評価欄 A	甲賀ロケーション推進協議会事業として、映像作品を通じて、甲賀市の景観・歴史・文化などの魅力を市内外へ発信するとともに、若手クリエイターの発掘・育成を目的とする「甲賀映像祭」を初めて実施しました。市民の部も開催することで、自分の住んでいる場所の魅力を発信する動画を市民の方にも作成いただくことができました。また、映像祭に併せて市内の小中学生に対して「ええとこ甲賀」をテーマとして市内の写真を募集・展示し、自分の住んでいる町の魅力を再発見してもらう取り組みを初めて実施しました。					
R6実績	評価欄 A	甲賀ロケーション推進協議会事業において、支援作品紹介や活動発信を目的として各種イベントへ出展し広報活動を実施しました。また、ロケ支援体制強化のための4つのプロジェクトを立上げ、市民参加を目的とした「エキストラ1,000人プロジェクト」では、啓発活動を強化し、令和5年度比で274人の増加となりました。					
②東海道における「暮らし・にぎわい」の再生		水口宿・土山宿において、市街地の空洞化対策などの「暮らし(居住環境)」と歴史文化財を活用した「にぎわい(観光による地域経済)」の再生に向けて、地域住民、関係団体とともに取り組みます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海道土山水口宿場会議」と連携し、東海道絵地図(岩上～大野版、水口宿以西地区版)の増刷、東海道宿場の景観を醸成する看板を4箇所に設置しました。また、東海道土山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道土山宿にぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めました。					
R4実績	評価欄 B	「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海道土山水口宿場会議」と連携し、東海道絵地図(岩上～大野版、水口宿以西地区版)の配布と啓発、東海道オブジェとして飛び出し坊や看板を6基作成し、設置しました。また、東海道土山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道土山宿にぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めました。					
R5実績	評価欄 B	「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海道土山水口宿場会議」と連携し、東海道絵地図への観光トイレの位置を記載、ええとこがいど(ボランティアガイドが各施設を紹介する番組)DVDの作成と配布、看板の整備(水口宿、土山宿、各1基)を行いました。また、東海道土山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道土山宿にぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めました。					
R6実績	評価欄 B	「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海道土山水口宿場会議」と連携し、現代版東海道五十三次水口宿場絵地図改訂版パンフレットを増刷、ええとこガイドDVDの制作配布、曳山型展示ボックスを改修し、ひとまち街道交流館に設置しました。また、デジタル観光マップに観光トイレを含む各施設を追加するなど、東海道を利用する方の満足度充実を図りました。また、東海道土山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道土山宿にぎわい再生ビジョンのアクションプラン見直しを行い、次期計画の策定を行った。					





④ゴルフ事業と連携した誘客促進		ゴルフコース数全国3位である本市の特性をより活かすため、ゴルフ利用客の一層の誘客を図りながら、市内ゴルフ場と連携し、市内の他の観光産業への誘導をはじめ、市内経済活動の活性化につなげます。	△	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	市内ゴルフコース数が全国3位であることを活かし、観光誘客を図るため、甲賀市観光まちづくり協会において誘客事業の検討を進めました。また、首都圏PR事業において、新たにゴルフPRを含めた東京銀座歌舞伎座でのポスター展を実施しましたが、ゴルフ場と連携した具体的な検討は出来ませんでした。						
R4実績	評価欄 B	市内ゴルフコース数が全国3位であることを活かした観光誘客を図るため、甲賀市観光まちづくり協会において、誘客事業の検討および関係ゴルフ場への働きかけを行いました。また、予算化に向けて、新たなゴルフPRのための協議を実施した。						
R5実績	評価欄 B	令和5年度より、ゴルフ振興事業について、部局横断的に事業化することとし、観光部局においては、甲賀市観光まちづくり協会、信楽町観光協会の業務委託により、市内ゴルフ場と関係団体が連携した誘客事業を実施しました。また整備事業として、誘客看板を行政として初めて設置するとともに、ゴルフ場周辺の沿道環境整備として、センターラインや外側線を整備し来訪者への安全対策事業を実施しました。						
R6実績	評価欄 B	ゴルフ振興事業について、部局横断的に事業化することとし、観光部局においては、甲賀市観光まちづくり協会、信楽町観光協会の業務委託により、市内ゴルフ場と関係団体が連携した誘客事業を実施しました。また、ゴルフ誘客看板の設置や道路ラインの引き直し、カーブミラーの整備等、来訪者への安全対策事業を実施しました。						
(2) 誘客事業・イベントの開催		本市の魅力をもっと多くの人に知ってもらえるようきかけとして、誘客事業やイベントの開催は有効な手段となります。甲賀市ファンの増加、リピーターの拡大を目指した取り組みの拡大・充実を進めるとともに、増加するインバウンドの取り込みを図ります。						
①信楽まちなかを核とした観光誘客の強化		信楽焼の芸術性を核に各種の地域資源を織り交ぜながら、新たな信楽の発信による、インバウンドを含む観光誘客の強化や地場産業の活性化を推進します。また、スカーレットレガシーを活用した観光誘客に取り組むとともに、新たな観光の形にも配慮し、信楽を訪れた観光客の市内他地域への回遊促進を図るため、各種団体と連携した取り組みを推進します。	→	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	コロナ禍でスカーレットによる観光誘客を活かしきれない状況でありましたが、「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会を中心に、スカーレットレガシーを活かしたテレビドラマの世界展の開催やプロモーションビデオの制作など継続した受入体制整備を実施するとともに、信楽町を入口とした市内への回遊を図るため、ロケスポットやロケツアーを促進し、スカーレット効果を一過性に終わらせない取り組みを進めましたが、信楽焼の芸術性を活かした観光誘客の強化や地場産業の活性化に向けた具体的な取り組みは出来ませんでした。						
R4実績	評価欄 B	「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会から甲賀ロケーション推進協議会において事業を継承し、スカーレットレガシーを活かしたテレビドラマの世界展の開催やスカーレットで料理指導をされていた広里貴子先生とワンハンドグルメ「ひいろクック」の開発をし、スカーレット効果を一過性に終わらせない取り組みを進めました。また、商工労働課と連携した官民連携エリアリノベーション事業により、可能性調査を実施した。						
R5実績	評価欄 A	甲賀ロケーション推進協議会事業として、映像作品を通じて、甲賀市の景観・歴史・文化などの魅力を市内外へ発信するとともに、若手クリエイターの発掘・育成を目的とする「甲賀映像祭」を初めて実施しました。スカーレットレガシーを活かしたテレビドラマの世界展の入場者を対象にアンケート調査を実施し、入場回数や年齢、展示物の内容や今後の展望等を調査しました。						
R6実績	評価欄 B	甲賀ロケーション推進協議会事業において、スカーレットレガシーを活かしたテレビドラマの世界展の入場者を対象にアンケート調査を実施し、入場回数や年齢、展示物の内容や今後の展望等を調査しました。また、「テレビドラマの世界展分散展示」「緋色の商店街展示業務委託」「交通看板整理」に取組みました。						
②甲賀流リアル忍者館を活用した誘客促進		地域おこし協力隊をはじめ、忍者に関係する各種団体と連携しながら、市の観光ゲートウェイの役割を担う観光インフォメーションセンター「甲賀流リアル忍者館」を有効活用した事業を展開し、市内の観光資源への周遊を促進します。	△	●	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 A	甲賀流リアル忍者館の施設運営管理について、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、地域おこし協力隊の福島崇仁隊員にも企画運営へ関わっていただきながら、設立1周年記念イベント(墨絵師御歌頭氏のライブイベント等)の開催や忍者月間の取り組み(忍者をモチーフとしたアール・ブリュット展)、GOTONINJAクーポン事業を実施するなど、甲賀流忍者を通じた観光誘客を図り、市内への周遊を促す取り組みを実施しました。また、忍者の人気ポケモンキャラクターであるゲッコウガをデザインしたポケふたを設置しました。						
R4実績	評価欄 A	甲賀流リアル忍者館の施設運営管理について、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、地域おこし協力隊の福島崇仁隊員にも企画運営へ関わっていただきました。「モンスターハンター×甲賀」のコラボ企画を実施し、市内外へのPR効果は非常に高いものでありました。						
R5実績	評価欄 B	甲賀流リアル忍者館の施設運営管理について、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、地域おこし協力隊の福島崇仁隊員にも企画運営へ関わっていただきました。また、甲賀流忍者を題材としたアニメ制作を手掛けているクリプトアニメラボ有責任事業組合と連携協定を締結し、リアル忍者館に『忍ばない！クリプトニンジャ咲耶』のパネルを展示しました。						
R6実績	評価欄 B	甲賀流リアル忍者館の施設運営については、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、安定的な運営体制を確保しました。あわせて、多言語対応として翻訳データを整備し、ホームページへのQRコード翻訳ページの追加や館内展示物へのQRコード設置を行ったことで、訪日外国人を含む来館者の利便性向上とインバウンド対応の強化につながりました。						
③東海道宿場への誘客促進		東海道を起点として甲賀三大佛(樺野寺・大池寺・十楽寺)のほか水口岡山城、田村神社など東海道沿いの観光施設のPR促進に努め、宿場のまちなかや近隣地域に人が回遊するためのルート化や相互連携に取り組めます。	→	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	コロナ禍のため、あいの土山宿場まつり等、東海道関連のイベント事業は中止となりましたが、東海道土山水口宿場会議において宿場の活性化に向けた取組み(パンフレット増刷、看板設置)を進めました。その他、東海道沿線の既存の公共施設において、観光客が利用しやすいようにトイレ看板的整備を行いました。						
R4実績	評価欄 B	歴史文化都市構築事業補助金のイベント補助において、コロナ禍でとりやめとなっていた「よみがえれ水口岡山城」等のイベントを支援し、東海道土山水口宿場会議において宿場の活性化に向けた取組み(パンフレット増刷、飛び出し坊や看板設置)を進めました。						
R5実績	評価欄 B	歴史文化都市構築事業補助金のイベント補助においてイベントを支援し、「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海道土山水口宿場会議」と連携し、東海道絵地図への観光トイレの位置を記載、ええとこがいど(ボランティアガイドが各施設を紹介する番組)DVDの作成と配布、看板の整備(水口宿、土山宿、各1基)を行いました。						
R6実績	評価欄 B	歴史文化都市構築事業補助金のイベント補助においてイベントを支援し、「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海道土山水口宿場会議」と連携し、東海道絵地図への観光トイレの位置を記載、ええとこがいど(ボランティアガイドが各施設を紹介する番組)DVDの制作・配布、曳山型展示ボックスを改修し、ひとまち街道交流館に設置しました。また、デジタル観光マップへ施設の追加、観光トイレの追加を行い、東海道を利用する方の満足度充実を図りました。						

④観光産業をめざした多様なツーリズムの推進		広域連携も踏まえたサイクルツーリズム、植樹祭と連携したグリーンツーリズム、ゴルフ場と連携したスポーツツーリズム、大阪・関西万博と連携した自然や歴史文化を活用したエコツーリズムやウェルネスツーリズム、アール・ブリュットを活用したアートツーリズムなど、多様なツーリズムを促進することで、新たな観光の形の検討を進め、観光産業を推進します。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づく、案内看板及びベンチ等を設置し、ウェルネスツーリズムに向けた受入整備を進めました。また、アートツーリズムに向けて、やまなみ工房と連携し、忍者をモチーフとしたアール・ブリュット展を甲賀流リアル忍者館で開催し、相互誘客を図りました。他、伊賀甲賀忍者協議会事業として、地域の自然環境を活かしたサイクルツーリズムの造成を行い、パンフレットの作成や大阪万博公園でのサイクルイベントにてPRを行いました。					
R4実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づく、看板設置及び休憩所等の改修を実施し、ウェルネスツーリズムに向けた受入整備を進めました。また、大阪・関西万博を見据え、大阪観光局並びに伊賀市と連携協定を締結し、広域な周遊ルートの造成とPRIに向けた取り組みを行いました。					
R5実績	評価欄 B	ロケツーリズムに向けて、甲賀ロケーション推進協議会事業として映像作品を通じて、甲賀市の景観・歴史・文化などの魅力を市内外へ発信するとともに、若手クリエイターの発掘・育成を目的とする「甲賀映像祭」を初めて実施しました。また、新たな観光の形の一つとして、甲賀流忍者を題材としたアニメ制作を手掛けているクリボアニメラボ有限責任事業組合と連携協定を締結し、リアル忍者館に『忍ばない！クリボンツァ映耶』のパネルを展示しました。					
R6実績	評価欄 B	ゴルフ場と連携したスポーツツーリズムとして、(一社)観光まちづくり協会の観光PR大使である吉幾三氏のチャリティーゴルフコンペを市内ゴルフ場で開催し、その他、スポーツ協会・観光協会が連携し市内ゴルフ場でのイベントを実施しました。また、大阪・関西万博を見据えたインバウンド対応の体験型ツアー(日帰り忍者サイクリング、忍者修行トレッキングと温泉、家族向け忍術村と農家ホームステイ、MKタクシーで行く信楽日帰り街歩きと食体験、信楽宿泊街歩きと農泊)を5つ造成し、日本国際博覧会協会による審査を経て万博観光ポータルサイトへの掲載しました。					
⑤体験プログラム及び体験型ツアー造成		農作業や豊かな自然、郷土料理づくりや地域文化活動などを活用した甲賀市独自の体験プログラムを整備し、民泊等の宿泊事業との連携も含め、体験型観光ツアーの造成を図ります。また、SDGsを体験できる観光商品となるよう取り組みを進めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業として、甲賀市観光まちづくり協会や信楽町観光協会と連携し、体験コンテンツの造成(10事業者15メニュー)に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、甲賀市都市農村交流事業等の宿泊事業との連携は進められませんでした。					
R4実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業として、(一社)甲賀市観光まちづくり協会や信楽町観光協会と連携し、体験コンテンツの造成(9事業者13メニュー)に取り組みました。					
R5実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、既存の体験コンテンツをまとめたパンフレットを作成しました。また、大阪・関西万博を見据えたインバウンド対応の体験型ツアーを新たに造成するとともに、インバウンドを扱う旅行会社等に対する提案書の作成、インバウンド向けツアーのPR動画を作成しました。					
R6実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、大阪・関西万博を見据えたインバウンド対応の体験型ツアーを5つ造成し、日本国際博覧会協会による審査を経て万博観光ポータルサイトへの掲載した。					
⑥スカーレットを契機としたロケツーリズムの構築		連続テレビ小説「スカーレット」の舞台に選ばれ、ロケ支援や受入体制整備、誘客事業への活用等を公民連携して取り組んだことを契機として、「スカーレット」だけに留まらない映像作品の誘致と作品を活用したロケツーリズムを推進するため、公民連携した組織体制を構築し、誘客促進や地域活性化を図ります。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	映画やバラエティ番組、情報番組等のロケ支援を行うとともに、「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会と連携し、ロケ隊等のおもてなしや信楽高原鐵道のプロモーションビデオの制作、地元食材を活用したレシピ本や動画の制作等を行うなど、ロケーションを活用した誘客促進や地域活性化を図りました。					
R4実績	評価欄 A	より多くの作品支援を行うため、「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会を発展的に解散し、(一社)甲賀市観光まちづくり協会、信楽町観光協会、甲賀市商工会、(公社)水口青年会議所により構成される、甲賀ロケーション推進協議会を設立しました。昨年、オール滋賀県で撮影された映画「線は、僕を描く」においては、市内のみならず(甲賀市役所、甲賀看護専門学校、茶鶏園、油日神社、個人宅、アパート)でロケが行われたため、その様子をパネル展を実施することで誘客およびシンビックプライドの醸成を図りました。また滋賀ロケーションオフィスと連携し、滋賀県内ロケ地を周遊するデジタルスタンブラーを共催しました。					
R5実績	評価欄 A	甲賀ロケーション推進協議会事業として、映像作品を通じて、甲賀市の景観・歴史・文化などの魅力を市内外へ発信するとともに、若手クリエイターの発掘・育成を目的とする「甲賀映像祭」を初めて実施し、映像祭に併せて市内の小中学生に対して「ええとこ甲賀」をテーマとして市内の写真を募集・展示し、自分の住んでいる町の魅力を再発見してもらう取り組みを初めて実施しました。また、ロケ地ツーリズムの推進のため、ロケ地看板の制作に着手しました。					
R6実績	評価欄 A	甲賀ロケーション推進協議会事業において、支援作品紹介や活動発信を目的として各種イベントへ出展し広報活動を実施しました。また、ロケ支援体制強化のための4つのプロジェクトを立上げ、市民参加を目的とした「エキストラ1,000人プロジェクト」では、啓発活動を強化し、令和5年度比で274人の増加となりました。					
(3)戦略的マーケティング		実効性のある観光施策の推進のためには、可能な限り客観的な指標・データを根拠として、計画、実施、評価、見直しのPDCAサイクルを回すことが求められます。戦略的マーケティングの視点を確立し、施策効果の測定や事業の見直し、ニーズに基づいた観光商品の開発等の推進に努めます。将来的には、(仮称)甲賀市版観光DMOに業務を引き継ぎ、民間主導による観光振興の充実を図ります。					
①マーケティング・リサーチの実施		観光入込客調査に加え、観光客に対するアンケート調査や事業者からの聞き取り等を実施し、消費者ニーズや実態の把握に努めます。また、近隣観光地や国内旅行の情勢、価格競争力の分析を行い、商品開発と販売戦略に反映します。また、先進地の事例を参考により効果的な指標等の研究を進めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	信楽町観光協会においては観光客を対象にモバイルアンケートを実施しました。また(一社)甲賀市観光まちづくり協会においては取組事業に反映できるよう、甲賀流リアル忍者館の来客者やHP、SNS等の閲覧状況の統計を基に分析を行いました。					
R4実績	評価欄 B	信楽町観光協会においては観光客を対象にモバイルアンケートを実施しました。(一社)甲賀市観光まちづくり協会においては取組事業に反映できるよう、甲賀流リアル忍者館の来客者やHP、SNS等の閲覧状況の統計を基に分析を行いました。また、観光応援クーポン券事業者補償として、市内宿泊施設利用者へのクーポンの発行を行う際に、アンケートの実施し、分析を行いました。					
R5実績	評価欄 A	GPS位置情報元にした観光動態調査を初めて実施するとともに、来訪履歴のあるスマホユーザーに対してWebアンケートを行い、持続可能な観光マネジメントに向けた消費者ニーズの実態把握に取り組みました。					
R6実績	評価欄 B	昨年に引き続きGPS位置情報元にした観光動態調査を実施するとともに、来訪履歴のあるスマホユーザーに対してWebアンケートを行い、持続可能な観光マネジメントに向けた消費者ニーズの実態把握に取り組みました。					

②ニーズに基づいた観光商品の開発促進		ウイズコロナ・アフターコロナにおけるニューノーマルに対応した観光の形態をリサーチし、ニーズを的確に捉え、観光資源の商品化やルート造成など時代に合わせた観光商品開発を促進し、着地型観光の充実を図ります。	△	●	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、新たな観光コンテンツ・体験メニューを10事業者15メニューの造成を行いました。また、(一社)甲賀市観光まちづくり協会においては、取得した旅行業資格を活用し、7回のツアーを造成販売し、着地型観光を推進しました。						
R4実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、新たな観光コンテンツ・体験メニューを9事業者13メニューの造成を行いました。また、(一社)甲賀市観光まちづくり協会においては、取得した旅行業資格を活用し、12本のツアーを造成販売し、着地型観光を推進しました(内9本催行)。						
R5実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、既存の体験コンテンツをまとめたパンフレットを作成しました。また、大阪・関西万博を見据えたインバウンド対応の体験型ツアーを新規造成し、インバウンドを扱う旅行会社等に対する提案書の作成、インバウンド向けツアーのPR動画を作成しました。						
R6実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、大阪・関西万博を見据えたインバウンド対応の体験型ツアーを5つ造成し、日本国際博覧会協会による審査を経て万博観光ポータルサイトへの掲載した。						
(4)新たな観光の形に対応した誘客促進		新型コロナウイルス感染症による世界的な危機は、社会・経済活動に大きなインパクトを与え、「いつもの暮らし」の大切さを再認識することになりました。これからの4年間は、ウイズコロナ・アフターコロナにおける「新しい豊かさ」を追求することとし、観光においても新たな形の誘客促進を図ります。						
①マイクロツーリズムの推進		ウイズコロナ・アフターコロナの観光の形として、団体から個人、遠方から近場へと変化している観光需要に対応したマイクロツーリズムを推進するため、県内をはじめ、移動時間の少ない近隣地域に向けた観光誘客事業を展開します。また、大阪・関西万博を見据えて、着地型観光メニューの造成を行い、誘客を図ります。	●	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	関西圏・中部圏へのPR事業として、「春夏秋冬びあ関西版」へ甲賀市特集記事を掲載しました。(株)阪急交通社の大阪駅前2箇所、尼崎駅前1箇所の旅行カウンターで、また阪急電鉄主要駅11駅の駅ラックにて、観光ポスター、パンフレット、観光映像を掲出し、観光PRを行いました。その他、びわこビジターズビューローと連携し、JR金山駅で甲賀市ブースを設け、観光PRを行いました。						
R4実績	評価欄 A	マイクロツーリズム推進事業において、甲賀市観光プロモーションムービーを活用したWeb広告を関西圏・中部圏の方々へ向けて掲載した他、(株)阪急交通社の旅行カウンター(大阪駅2カ所、西宮駅1カ所)や阪急電鉄主要駅11駅の駅ラックにて、観光情報を発信し、誘客に努めました。また、2月22日(忍者の日)には大阪観光局、伊賀市との連携協定を締結し、大阪・関西万博を見据えた誘客促進を行う体制を強化しました。						
R5実績	評価欄 B	マイクロツーリズム推進事業において、甲賀市観光PR動画を活用したWeb広告を関西圏・中部圏の方々へ向けて掲載した他、周遊型観光促進事業として、(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、既存の体験コンテンツをまとめたパンフレットを作成しました。また、大阪・関西万博を見据えたインバウンド対応のツアーを造成し、インバウンドを扱う旅行会社等に対する提案書の作成、インバウンド向けツアーのPR動画を作成しました。						
R6実績	評価欄 B	マイクロツーリズム推進事業において、甲賀市観光PR動画を活用したWeb広告を関西圏・中部圏の方々へ向けて掲載した他、周遊型観光促進事業として、大阪・関西万博に関連する国内外の観光客を対象とする5つのツアーを造成し、日本国際博覧会協会による審査を経て万博観光ポータルサイトへの掲載した。						
②周遊型観光メニューの造成		甲賀の身近な魅力を周遊してもらおう仕掛けとして、地域の観光資源を磨き上げ、活用し、個人客や団体客などそれぞれのニーズに対応した着地型の周遊型観光メニューの造成を行い、誘客促進による地域経済の活性化を図ります。	●	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、リクルート”じゃらん”のアドバイスを受けながら、新たな観光コンテンツ・体験メニューを10事業者15メニューの造成を行いました。						
R4実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、リクルート”じゃらん”のアドバイスを受けながら、新たな観光コンテンツ・体験メニューを9事業者13メニューの造成を行いました。						
R5実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業として、(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、既存の体験コンテンツをまとめたパンフレットを作成しました。また、大阪・関西万博を見据えたインバウンド対応のツアーを造成し、インバウンドを扱う旅行会社等に対する提案書の作成、インバウンド向けツアーのPR動画を作成しました。						
R6実績	評価欄 A	周遊型観光促進事業として、(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、大阪・関西万博に関連する国内外の観光客を対象とする5つのツアーを造成し、日本国際博覧会協会による審査を経て万博観光ポータルサイトへの掲載しました。						
③ICTを活用したおもてなし観光の充実		観光看板のデジタルサイネージ化やQRコードを活用した説明や多言語化など、ICTを活用した非接触型の観光案内を促進することにより、気軽に安全な観光を楽しめるおもてなし体制づくりを推進します。また、観光ガイドの知識のデータ化など、ICTを活用した育成事業にも取り組みます。	●	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会が観光ボランティアガイド連絡協議会と連携し、観光おもてなし体制推進事業として、観光ガイドの知識をデータ化し、後継者育成のためのマニュアルとなるDVDの作成を行いました。また、市内の観光案内看板4箇所に多言語二次元コードの添付整備を行いました。						
R4実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事業として、サイン看板の英訳およびホームページの改修を行い、案内看板に英語版のQRコード表示を行いました。						
R5実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事業として、サイン看板に多言語対応のQRコードを貼り付けるとともに、リアル忍者館の多言語についての翻訳作業(スペイン語)を行いました。						
R6実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事業として、サイン看板に多言語対応のQRコードを貼り付けるとともに、リアル忍者館で放映しているプロジェクションマッピングの英語字幕を併記しました。また、やさしい日本語小冊子の英語訳制作し、デジタル版を協議会HPに掲載しました。						

3. 地域活性化戦略

(1) 市民意識の向上		観光振興とまちづくりを一体的に推進する上で、観光地としてのまちの形成に対する市民理解の促進が不可欠です。地域の歴史・文化に対する理解の向上と観光資源に対する誇りの醸成を図ります。						
①市内観光資源に触れる機会の創出		観光ボランティアガイドや国際交流協会の協力を得ながら、地域の歴史・自然・文化など観光に関する市民向け講座・学習会を開催し、市民の観光への関心と、地域に対する知識や誇りを高めます。 また、学校給食へ地元産食材の活用をするなど、子どもたちが地域のことに誇りを持って学んだり体験したりできる機会を増やし、観光のまちづくりに参画する人材の育成を図ります。	→	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	甲賀流リアル忍者館の市内小中学校の社会見学について、6校の受け入れを行いました。また、甲賀流リアル忍者館において、令和3年度から新たに小学生児童を対象とした、ちびっこ忍者教室を開催しました。例年、実施している忍者給食においては、給食時に忍者給食のメニュー紹介に合わせ、甲賀流忍術と甲賀流リアル忍者館のPR動画を新たに作成し、全校で放映しました。他、観光ボランティアガイド連絡協議会において、市民向けの歴史講座が開催されました。						
R4実績	評価欄 B	甲賀流リアル忍者館の市内小中学校の社会見学について、4校計189人の受け入れを行いました。また、甲賀流リアル忍者館において、小学生児童を対象とした、ちびっこ忍者教室を開催しました。例年、実施している忍者給食においては、給食時に忍者給食のメニューを提供することで、子どもたちへ自分たちが住んでいる忍者の里に対する興味・関心の向上を図りました。他、観光ボランティアガイド連絡協議会において、転入者や市民へ向けた歴史講座が開催されました。						
R5実績	評価欄 B	甲賀流リアル忍者館の市内小中学校の社会見学について、3校計158人、保育園幼稚園について、1園計112人の受け入れを行いました。また、甲賀流リアル忍者館において、小学生児童を対象とした、ちびっこ忍者教室を開催しました。例年、実施している忍者給食においては、給食時に忍者給食のメニューを提供することで、子どもたちへ自分たちが住んでいる忍者の里に対する興味・関心の向上を図りました。他、観光ボランティアガイド連絡協議会において、転入者や市民へ向けた歴史講座が開催されました。						
R6実績	評価欄 B	甲賀流リアル忍者館の市内小中学校の社会見学について、3校の受け入れを行いました。また、甲賀流リアル忍者館において、小学生児童を対象とした、間違いだらけの見習い忍者を開催しました。例年、実施している忍者給食においては、給食時に忍者給食のメニューを提供することで、子どもたちへ自分たちが住んでいる忍者の里に対する興味・関心の向上を図りました。他、観光ボランティアガイド連絡協議会において、転入者や市民へ向けた歴史講座が開催されました。						
②ツーリズム事業への市民の利用促進		ロケ地巡りや飯道山周遊ルートなど、造成した市内周遊型観光のプランを市民のウェルネスツーリズムにも活用することで、健康増進を図るとともに、本市の観光資源が再認識されることによるシンビツクプライドの醸成を図ります。	△	●	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づく、案内看板4箇所・ベンチの設置6箇所を設置するなど、市内周遊型観光のプラン造成に向けた取り組みを行い、ウェルネスツーリズムに向けた受入整備を進めました。また、スカーレットコンサートの開催に合わせたロケ地巡りツアーの開催や、(一社)甲賀市観光まちづくり協会による市内観光資源を回る会員向けのモニターツアーの実施等、ツアー企画に取り組みしました。						
R4実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づく、観光トイレの改修設計、登山道や休憩所の補修、看板やベンチの設置など、市内周遊型観光のプラン造成に向けた取り組みを行い、ウェルネスツーリズムに向けた受入整備を進めました。また、モンスターハンターとのコラボレーション企画によるエクストラリーや、日本遺産構成文化財を周遊するツアーを実施しました。						
R5実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づく、観光トイレ改修工事が完了し、支障木の伐採や案内看板の設置により登山ルートを改善しました。また、地域おこし協力隊の事業で、令和3年に岩尾山で登山をしながら忍者体験をするコンテンツを造成し、令和4年度にモニターツアーしたものを、令和5年度には周遊型観光促進事業の造成ルートに組み込み商品化しました。						
R6実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づく、木製階段の改修を行い、登山客の利便性向上を図りました。地域おこし協力隊の事業で、令和3年に岩尾山で登山をしながら忍者体験をするコンテンツを造成し、令和4年度にモニターツアーしたものを、令和5年度には周遊型観光促進事業の造成ルートに組み込み商品化しました。また、令和6年度には、岩尾山を忍者ガイドと共にトレッキングにするコンテンツを組み込んだツアーを造成し、日本国際博覧会協会による審査を経て万博観光ポータルサイトへの掲載しました。						
(2) 市民・事業者との協働		本市における観光振興に対する市民・事業者の意識は、地域による格差が大きいことが指摘されており、全市民的観光振興への関心は十分とは言えない状況です。幅広い市民・事業者の参加を促す取り組みを推進し、市民・事業者との協働による観光振興の充実を図ります。						
①観光協会の機能強化		本市における観光振興の中心的な役割を担う観光協会が地域と連携して取り組みツアーの造成や商品の開発など、新たな財源の確保や組織の機能強化に向けた取り組みを支援します。	→	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が連携し、GOTONINJAKUクーポン事業を実施するなど、新たな取組を行いました。また、周遊型観光促進事業(観光メニュー・コンテンツの造成)においても両協会が事業協力・連携し、観光コンテンツ・体験メニュー・周遊ツアーの造成を進めました。						
R4実績	評価欄 B	観光資源等魅力向上補助において、(一社)甲賀市観光まちづくり協会はモンスターハンターのコラボを核として、リアル忍者館の特別展示や、甲賀市御狩印エクストラリー、信楽高原鐵道のコラボレーションの実施やオリジナルグッズ製造および販売を実施し、信楽町観光協会は信楽観光PR動画作成や、信楽ムービーコンテストの開催等、組織強化に向けた新規取り組みを支援しました。また、両協会が連携し、周遊型観光促進事業(観光メニュー・コンテンツの造成)においても両協会が事業協力・連携し、観光コンテンツ・体験メニュー・周遊ツアーの造成を進めました。						
R5実績	評価欄 B	観光資源等魅力向上補助において、(一社)甲賀市観光まちづくり協会の新たな忍者体験のツールやノベルティ作成、信楽町観光協会の信楽観光PR動画作成や、インバウンド対応への取り組み費用等、組織強化に向けた新規取り組みを支援しました。また、両協会が連携し、周遊型観光促進事業(観光メニュー・コンテンツの造成)においても両協会が事業協力・連携し、観光コンテンツ・体験メニュー・周遊ツアーの造成を進めました。						
R6実績	評価欄 B	観光資源等魅力向上補助において、各観光協会の組織強化や自主運営できる体制づくりのための支援に努め、観光誘致に繋がる忍者、信楽焼、ゴルフなどのイベントの開催、PR等を積極的に実施いただき、観光客増加につながった。また、両協会が連携し、周遊型観光促進事業として大阪・関西万博に関連する国内外の観光客を対象とする5つのツアーを造成しました。						
②観光ガイドの育成と組織化		外部人材の活用も視野に入れながら、観光ガイドの養成講座やスキルアップ研修を開催し、ガイドの人材育成及び組織化を進めます。 また、外国語ガイドの体制整備について、今後の誘客戦略を踏まえながら検討します。	→	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	観光おもてなしに係る接遇及びプロガイドを講師にお招きし、観光ボランティアガイド連絡協議会の会員を対象とした観光ガイドの育成強化を行いました。また、観光庁の「地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修」を活用し、新型コロナウイルス感染症の影響によりWEB講義となりましたが、インバウンド対応研修(英語初級、中国語初級)を実施しました。その他、忍びの里伊賀甲賀推進協議会事業として、日本遺産「忍びの里伊賀・甲賀」リアル忍者ガイド養成講座を伊賀市・甲賀市にて実施しました。						
R4実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事業として、忍者観光ガイド育成講座の開催を継続実施するとともに、観光インフォメーションセンター甲賀流リアル忍者館で甲賀流忍者の歴史文化を広く紹介し、市民の関心とシンビツクプライドの向上に取り組みしました。						
R5実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事業として、忍者観光ガイド育成講座の開催を継続実施するとともに、実地研修として、大阪のイベントでガイドコーナーを設け、実際に伊賀市と甲賀市のPRを行いました。						
R6実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事業として、忍者観光ガイド育成講座の開催を継続実施するとともに、多言語対応の観光ガイドを育成するための検討として、地域通訳案内士を取り入れている市外観光協会等へのヒアリングや甲賀市国際交流協会へ多言語ガイドに関する現状・関心に関するアンケートを行いました。						

③空き家・空き店舗等の活用		空き家や空き店舗などを、観光資源として開発したり、磨き上げたりするなど、地元や関係団体と連携し効果的に活用する取り組みや整備について、支援を行います。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	空き家・空き店舗活用を含む、旧東海道の暮らしにぎわい再生事業として、東海道士山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道のぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めましたが、取り組みや整備等の支援について、具体的に進められませんでした。					
R4実績	評価欄 C	空き家・空き店舗活用を含む、旧東海道の暮らしにぎわい再生事業として、東海道士山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道のぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めましたが、取り組みや整備等の支援について、具体的に進められませんでした。					
R5実績	評価欄 C	空き家・空き店舗活用を含む、旧東海道の暮らしにぎわい再生事業として、東海道士山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道のぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めましたが、取り組みや整備等の支援について、具体的に進められませんでした。					
R6実績	評価欄 C	空き家・空き店舗活用を含む、旧東海道の暮らしにぎわい再生事業として、東海道士山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道のぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めましたが、取り組みや整備等の支援について、具体的に進められませんでした。					
④地域活性化のための多様な団体との連携促進		自治振興会や「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会など、市内の様々な団体が協働して取り組む観光資源を活用した地域活性化事業を促進するなど、公民連携した観光振興を推進します。	●	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会において、市内の様々な団体が協働し、市内の観光資源を活用しながら、地域活性化や観光誘客を促進する事業を継続的に実施しました。また、飯道山観光協会と連携しながら飯道山の登山道の整備を進め、観光ボランティアガイド連絡協議会とは観光おもてなし体制構築や観光資源への意識醸成の取り組み、東海道士山水口宿場会議においては東海道沿線の地域活性化に向けた取り組みを連携しながら進めました。					
R4実績	評価欄 B	市内28の関係団体で組織する「スカーレット」で効果を盛り上げる推進協議会が、当初の目的を達したことから発展的解散をし、新たに市全域でロケーションを活用した観光振興および地域振興の促進により観光産業の活性化を図るため、甲賀ロケーション推進協議会を設立し、観光客受け入れ体制の整備やロケ誘致に取り組みました。また、飯道山観光協会と連携しながら飯道山の登山道の整備を進め、観光ボランティアガイド連絡協議会とは転入者へ向けた市内ガイドイベントの実施を行い、東海道士山水口宿場会議においては東海道沿線の地域活性化に向けた取り組みを連携しながら進めました。					
R5実績	評価欄 A	甲賀ロケーション推進協議会では映像作品を通じて、甲賀市の景観・歴史・文化などの魅力を市内外へ発信するとともに、若手クリエイターの発掘・育成を目的とする「甲賀映像祭」を初めて実施しました。また、飯道山観光協会と連携しながら飯道山の登山道の整備を進め、観光ボランティアガイド連絡協議会とは転入者へ向けた市内ガイドイベントの実施を行い、東海道士山水口宿場会議においては東海道沿線の地域活性化に向けた取り組みを連携しながら進めました。					
R6実績	評価欄 A	甲賀ロケーション推進協議会では映像作品を通じて、甲賀市の景観・歴史・文化などの魅力を市内外へ発信するとともに、若手クリエイターの発掘・育成を目的とする「甲賀映像祭」の来年度開催に向けた準備及び日本国際観光映像祭の誘致を行いました。また、飯道山観光協会と連携しながら飯道山の登山道の整備を進め、観光ボランティアガイド連絡協議会とは転入者へ向けた市内ガイドイベントの実施を行い、東海道士山水口宿場会議においては東海道沿線の地域活性化に向けた取り組みを連携しながら進めました。					
(3) 広域連携		観光誘客のさらなる促進やインバウンドの取り込みにおいては、甲賀市単独の取り組みだけでは限界があります。近隣自治体との広域的な連携や協力関係を確立し、観光客の行動範囲に対応した取り組みの充実を図ります。					
①忍者をキーワードとする自治体間連携の強化		忍者を観光資源として有効活用している先進地である伊賀市との関係を軸としながら、日本忍者協議会の活動を通じて、忍者を観光資源としている自治体との観光面での連携をさらに強化していきます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	日本忍者協議会においては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる事業があったものの、定期的なWEB会議により情報共有を図りました。忍びの里伊賀甲賀忍者協議会においては、WEBも含め定期的な担当者会議を開催し、情報共有を図りながら、ガイド養成講座、看板設置、サイクリング事業などを実施しました。					
R4実績	評価欄 A	日本忍者協議会においては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる事業があったものの、定期的なWEB会議により情報共有を図りました。忍びの里伊賀甲賀忍者協議会においては、WEBも含め定期的な担当者会議を開催し、情報共有を図りながら、ガイド養成講座、看板設置、サイクリング事業などを実施しました。また、2月22日(忍者の日)には大阪観光局、伊賀市との連携協定を締結し、大阪・関西万博を見据えた誘客促進を行う体制を強化しました。					
R5実績	評価欄 A	日本忍者協議会においては、定期的なWEB会議により情報共有を図りました。忍びの里伊賀甲賀忍者協議会においては、7月に「忍びの里 伊賀・甲賀」が日本遺産のモデル地域となる重点支援地域に選ばれました。令和4年度に連携協定を締結した大阪観光局や伊賀市、(一社)アーバンツーリズム大阪・船場等と連携し、大阪で3回イベントを実施し、忍びの里のPRを行いました。また、初めてガイド養成講座の実地研修を行い、実際に大阪のイベントにて、外国人に対して伊賀市と甲賀市を紹介する事業を実施しました。情報発信としては、やさしい日本語パンフレット及びホームページのリニューアルを実施しました。					
R6実績	評価欄 A	日本忍者協議会においては、定期的なWEB会議により情報共有を図りました。忍びの里伊賀甲賀忍者協議会においては、定期的な担当者会議を開催し、情報共有を図りながら、ガイド養成講座、日本遺産の日イベント、忍者百人衆ウォーキングトレイル事業、大阪市内ホテルでの忍びの里PRを行いました。また、情報発信としては、やさしい日本語パンフレット及びホームページの改修を実施しました。					
②日本遺産に関する自治体間連携の強化		六古窯日本遺産活用協議会、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会等の活動を通じて、日本六古窯の所在自治体をはじめとする「焼き物」を観光資源としている自治体や忍者を観光資源とする伊賀市との観光面での連携をさらに強化していきます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会による事業展開や、日本遺産サミット等を通じた、他の日本遺産認定自治体との交流を図るなどの取り組みを進めました。					
R4実績	評価欄 A	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会による事業展開や、日本遺産サミット等を通じた、他の日本遺産認定自治体との交流を図るなどの取り組みを進めました。また、2月22日(忍者の日)には大阪観光局、伊賀市との連携協定を締結し、大阪・関西万博を見据えた誘客促進を行う体制を強化しました。					
R5実績	評価欄 A	7月には文化庁から「忍びの里 伊賀・甲賀」がモデル地区となる日本遺産重点支援地域に選ばれるなど、これまでの活動が評価されました。また、事業としては、広域な新規イベントの実施ややさしい日本語パンフレット及びホームページのリニューアルを実施しました。また、初めてガイド養成講座の実地研修を行い、実際に大阪のイベントにて、外国人に対して伊賀市と甲賀市を紹介する事業を実施しました。					
R6実績	評価欄 A	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会による事業展開や、日本遺産サミット等を通じた、他の日本遺産認定自治体との交流を図るなどの取り組みを進めました。事業としては、大阪城下町エリア(船場・心斎橋・天神橋等)のハイエンドホテルと連携し、タピナカのプロスワフトリップとして、ホテルを利用している訪日外国人に伊賀甲賀の構成文化財を活用した旅行商品や様々な体験コンテンツの魅力を楽しくもたらえる機会を創出し、現地への誘客を促進させるための広告宣伝を実施しました。また、ガイド養成講座の実地研修を行い、実際に大阪のイベントにて、外国人に対して伊賀市と甲賀市を紹介する事業を実施しました。					

③広域な地域ツーリズムの推進		近隣自治体との広域連携による観光ルートの形成や、誘客の促進、受入体制の整備など、交通アクセスの向上にともなう旅行者の行動範囲の拡大に対応した広域連携による観光振興の充実を図ります。また、甲賀市都市農村交流推進協議会が行う中高生等の教育旅行の受け入れをはじめとし、同様の観光資源を持つ地域との連携を検討します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会において、2市の観光資源を巡るサイクリングコースを造成し、そのPRを行いました。また、いこか連携(伊賀市・甲賀市・亀山市)において、三国岳を中心とした“いこかトレイル”を実施しました。					
R4実績	評価欄 B	昨年度作成したサイクリングコースのマップを英訳し、外国人訪日客への対応を進めました。2月22日(忍者の日)には大阪観光局、伊賀市との連携協定を締結し、大阪・関西万博を見据えた誘客促進を行う体制を強化しました。					
R5実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業として大阪・関西万博を見据えたインバウンド対応の体験型ツアーを新規造成し、広域なツーリズムに向けて、大阪観光局や伊賀市との連携強化を図りました。					
R6実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業として大阪・関西万博に関連する国内外の観光客を対象とする5つのツアーを造成しました(日帰り忍者サイクリング、忍者修行トレッキングと温泉、家族向け忍術村と農家ホームステイ、MK タクシーで行く信楽日帰り街歩きと食体験、信楽宿泊街歩きと農泊)。また、5つのツアーを日本国際博覧会協会による審査を経て万博観光ポータルサイトへ掲載しました。					
(4)(仮称)甲賀市版観光DMOの設立		効果的な観光振興のためには、行政的な取り組みだけでは限界があります。観光まちづくりに関する専門的な人材を有し、観光振興とまちづくりを中・長期的視点から実践的にマネジメントする組織として、(仮称)甲賀市版観光DMOの設立に向けた取り組みを推進します。					
①観光振興のマネジメントに向けた検討について		観光まちづくりと観光振興を中・長期的視点からマネジメントできる組織の必要性について、共通認識を深め、国や他の自治体の動向を踏まえ、調査・研究・検討を進めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	国から講師を招き、観光DMOに係る勉強会の開催や先進地視察を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により開催できませんでした。					
R4実績	評価欄 B	国から講師を招き、観光DMOに係る研修を実施しました。					
R5実績	評価欄 B	観光関連事業者等の共通認識を深めるため、地方創生の伴走型コンサルタント会社である株式会社さとゆめから講師を招き、DMO制度の現状と概要、メリットやモデルケース等をテーマとした研修を実施しました。					
R6実績	評価欄 B	甲賀市観光振興審議会での審議により、持続可能な観光推進体制として甲賀市版DMOを構築するため、まちづくりと観光振興を中・長期的視点から実践的にマネジメントできる専門的な人材を育成する組織の必要性について、調査・研究・検討を進めるという方向付けを行い、計画に反映することができたが、具体的な取り組みまでには至りませんでした。					
②地域資源を活かした集客交流ビジネスの促進		市民に対して情報共有するため、これまで注目されてこなかった地域資源の再認識や発掘を行い、地域資源を活用したイベントを開催するなど市民の観光に対する機運を高め、集客交流ビジネスを促進します。	△	→	●	→	継続
R3実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、新たに観光事業者を増やすことを目的にセミナーの開催を実施するなど、集客交流ビジネスの促進に向けた取り組みを進めました。					
R4実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、新たに観光事業者を増やすことを目的にセミナーの開催を実施するなど、集客交流ビジネスの促進に向けた取り組みを進めました。また、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事業として、ガイド育成講座を初級編と上級編にわけて実施し、延べ78人が参加し、観光に対する機運を高めました。					
R5実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事業として、座学のガイド育成講座を実施するとともに、初めてガイド養成講座の現地研修を行い、実際に大阪のイベントにて、外国人に対して伊賀市と甲賀市を紹介する事業を実施しました。					
R6実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、大阪関西万博を契機とする観光需要増加に向けた事業者サポートとして、万博観光ポータルサイト登録に係る事業者向け説明会を開催しました。					